



VOL.1

雪道や凍結路面を安全に運転するテクニック



このコーナーではクルマに関する
為になる雑学をご紹介します。
意外と知らないことがあるかも!?

岐阜県はまだまだ寒い季節が続きますね。スタッドレスタイヤを多くの方が活用していると思いますが、スタッドレスタイヤだからといって過信し走行すると、思わぬ事故に繋がる恐れも出てきます。今回から始まった「くるまのざつがく」記念すべき第1回では、そんな雪道・凍結路面をより安全に運転することができるテクニックをご紹介します。

1 雪道の運転に必要なことってなあに？

基本的に雪道での運転に必要なテクニックとしては、まず「①雪道の状態を正しく理解すること」、その路面状態に合わせて「②慎重に運転する判断力」、そして事故にならないために「③速度を出さない、急発進しない」といったドライビングテクニックが必要となります。当たり前のことじゃないかと思われる方も多かもしれませんが、路面の状態を把握することもテクニックに関係しますし、判断力もテクニックの1つだと言えますので単に車の運転が上手なだけでは、雪道を安全に走行することができないのです。上記の3つの要素がかみ合って、初めて雪道運転のテクニックが身に付くと言えます。

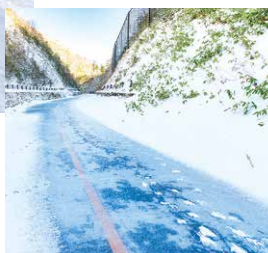


雪道を夏タイヤで走行するのは、
道路交通法違反にもなります。
普通車では6,000円の反則金が科せられます。



←
雪が踏まれ、雪の下に
アイスバーンがある路面。
スタッドレスタイヤやタイヤ
チェーンが効果的。

日陰の路面凍結は長期的に⇒
続きととても危険。
スタッドレスタイヤでも
スリップしてしまうことが多い。



2 路面の状態を正しく判断しましょう!

雪道には新雪が積もった雪道の他にも、車が走行して踏み固められた雪道や、雪が溶けて雪と水が混じりあった雪道、その水が凍って出来たアイスバーンと呼ばれるものも存在します。それぞれ路面ごとに運転する際のテクニックは異なりますが、どの道にも共通して言えるのが「急ブレーキは決して使用しない」こと。雪道で急ブレーキを踏んだり強めにブレーキを踏むと、スタッドレスタイヤを装着していてもタイヤが滑ってしまいます。その為スピードを落とす際にはエンジンプレーキを使用してスピードを緩めるテクニックが非常に重要になってきます。いつも通っているような道路であれば、信号のある場所を予測したり、通常走行時よりも車間距離を十分に保ち、数回に分けてブレーキを踏むことができる余裕を持つことも大切です。

3 急発進やアクセルの使い方にご注意!

雪道での運転テクニックとしては「急発進をしない」ということや「アクセルの使い方」にもポイントがあります。雪道の場合、新雪でもアイスバーンでも急発進するとタイヤが滑り車が前に進まない、予想外の方向に進んでしまう、といったトラブルに見舞われることがあります。その為、雪道ではアクセルをゆっくり踏んで低速で発進することや、1速・2速ギアを上手く使用し、エンジンプレーキとアクセルを使い分けることが重要となります。それを頭に入れておくと安定した発進が可能になります。CVT車の場合は、発進時はDレンジのままですが、下り坂などではSレンジやBレンジ(メーカーにより名称が異なる)などのレンジを使用し、エンジンプレーキを活用しましょう。また、注意しなければならないのが雪の坂道の運転。上りの場合は低速ギアで止まらないようなスピードで上る、下りの場合は最初から低速にしてブレーキを極力使用せず、エンジンプレーキを多用し下るようにしましょう。



↑ FF車や4WD車でも滑るときには滑ってしまう。
急発進・急ブレーキに気をつけ、スピードには十分注意しましょう。
また、運転している車がFF車なのか、FR車なのか、4WD車なのかを
把握しておくことも重要です。